

# 第十八回定例公演

# ほおずき

# 能

第十八回定例公演

公益社団法人能楽協会九州支部

平成二十九年八月二十七日(日)  
午後一時開演(正午開場)  
大濠公園能楽堂

能	狂言	舞囃子	舞囃子
小鍛冶	因幡堂	清経	白楽天
黒頭			
鷹尾維教	吉住講	東川光夫	森本哲郎

九州在住の能楽師による能・狂言をみてみませんか？

公益社団法人能楽協会九州支部は平成十一年に設立されました。  
現在、シテ方五流、ワキ方二流、囃子方七流、狂言方二流、  
約九十名の能楽師が所属しています。

今回の定例公演では、神託【神のお告げ】をテーマにした能の曲を集めました。  
神託を受けた主人公たちを中心に展開する物語をお楽しみください。



# 神託

しんたく  
oracle

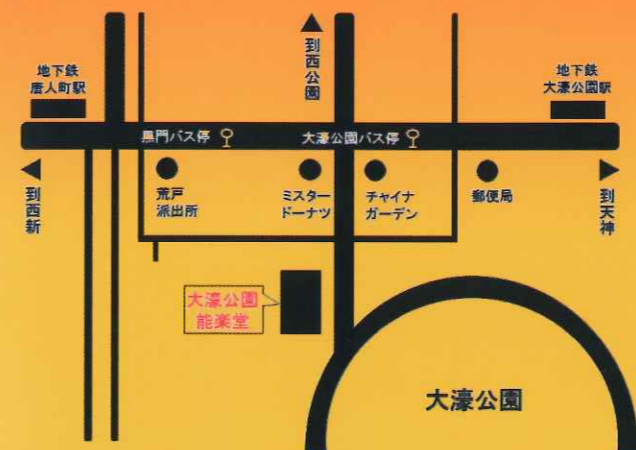
## 【神のお告げ】

### 入場料

全席自由 5,000円 (当日6,000円)  
学 生 2,000円 (当日2,500円)

### 入場券発売所

- 大濠公園能楽堂  
福岡市中央区大濠公園1-5 ☎092-715-2155
- チケットぴあ  
0570-02-9999【Pコード459-347】  
(セブンイレブン、サークルK、サンクスでもご購入できます)
- ローソンチケット  
0570-084-008【Lコード84070】



大濠公園能楽堂までのアクセス  
・地下鉄大濠公園駅、又は唐人町駅下車7分  
・西鉄バス黒門、又は大濠公園下車5分

主催：公益社団法人能楽協会九州支部  
後援：福岡県、福岡県教育委員会、福岡市、福岡市教育委員会

# ほおずき能

—解説—

舞囃子(観世流)

## 白楽天

住吉明神 森本 哲郎

大鼓 白坂 保行  
小鼓 飯富 章宏

大鼓 吉谷 潔  
笛 森田 徳和

井内 政徳  
鷹尾 章弘  
坂口 信男  
久保誠一郎

仕舞(金春流)

## 竜田

竜田姫神 田中 寿男

地謡

北山 春彦  
櫻間 右陣  
東 軍三

仕舞(観世流)

## 巻絹

巫女 松田美栄子

地謡

多久島法子  
菊本 美貴  
今村 宮子  
菊本 澄代  
木月 晶子

舞囃子(宝生流)

## 清経

清経 東川 光夫

大鼓 白坂 保行  
小鼓 飯田 清一

笛

森田 徳和

地謡

三澤 栄子  
田中トシエ

山岡 晴美  
田村 恭  
久貫 弘能

仕舞(観世流)

## 老松

老松ノ精 坂口 信男

地謡

井内 政徳  
今村 一夫  
森本 哲郎  
山口剛一郎

## 鉄輪

女ノ生霊 多久島利之

## 春日龍神

龍神 今村嘉太郎

仕舞(喜多流)

## 三輪

三輪明神 粟谷 幸雄

地謡

渡辺 康喜  
粟谷 充雄  
角 明弘

〈休憩 二十分〉

狂言(和泉流)

## 因幡堂

夫 吉住 講

妻 吉良 博靖

後見 野村 万緑

能(観世流)

## 小鍛冶

黒頭

童子 稲荷明神 鷹尾 維教

三條宗近 坂苗 融

勅使 御厨 誠吾

宗近ノ下人 中島 清幸

大鼓 三王 清

小鼓 古田寛二郎

太鼓 吉谷 潔  
笛 浦 政徳

後見

鷹尾 章弘  
鷹尾 祥史

地謡

川副 憲一  
本土 靖久  
今村嘉太郎  
山口剛一郎

久保誠一郎  
今村 嘉伸  
多久島利之  
今村 一夫

平成二十九年八月二十七日(日)

午後一時開演(正午開場)

大濠公園能楽堂

### 【あらすじ】

◇舞囃子 白楽天(はくらくてん)

唐の白楽天が日本の知力を試せとの勅命を受けて渡来する。すると、白楽天の前に住吉明神が現れ、舞を舞って神力を示し、神風を起こして白楽天を唐へと吹き戻す。

◇仕舞 竜田(たつた)

竜田姫神が現れ、姫神の縁起を語り、紅葉をめで、舞を舞って昇天する。

◇仕舞 巻絹(まきぎぬ)

天神の霊が巫女にのり移って現れ、しだいに神がかりして物狂おしくなり、あらたかな神の物語を始めるが、やがて巫女は本性に立ち戻る。

◇舞囃子 清経(きよつね)

清経の霊は、抗戦への懷疑から、死を決心し、念仏を唱えて舟端から身を投げたことを妻に語る。死後、修羅道に落ちて苦しんでいたが、念仏の功德で成仏する。

◇仕舞 老松(おいまつ)

老松の精が気高く舞を舞い、御代の春を寿ぐ。

◇仕舞 鉄輪(かなわ)

神託を受けた女が生霊となって現れ、夫の枕に寄り髪をつかんで打ち据えたりするが、神々の存在に気づき、無念のうちに消え失せる。

◇仕舞 春日龍神(かすがりゅうじん)

明恵上人の入唐を止めるため、龍神が現れる。

◇仕舞 三輪(みわ)

三輪明神が和歌の徳を讃え、神話を語り、天の岩戸隠れのときに初めて舞われたという神楽を舞ってみせる。

◇狂言 因幡堂(いなばどう)

怠け者で大酒飲みの妻に愛想を尽かした夫は、妻が里へ帰ったのを機会に離縁状を届け、夫が新しい妻をもらおうと因幡の薬師如来に願をかけ堂に籠っていると、これを知って立腹した前妻が現れ、うたた寝している夫に、西門に立っている女を妻に定めるよ言い聞かせる。目を覚ました夫は、薬師如来のお告げと思ひ込み喜んで西門へ行くが、さて結局は……

◇能 小鍛冶 黒頭(こかじ くるがしら)

三條宗近は剣を打って奉れとの勅命を受けたが、しかるべき相槌の人がいないのに困り、神力を頼むべく、稲荷明神へ参詣する。すると童子が現れ、中国・日本の伝説を引いて剣の威徳を詳しく語って宗近を励まし、壇を築いて我を待てと言いおいて稲荷山に去る(中入)。宗近が帰宅して用意を整えて待つと、稲荷明神が槌を構えて走り出、神威を示し、宗近をうながして交互に刀身を打ち、名剣小狐丸を仕上げるや、叢雲に飛び乗り、稲荷の峰に帰って行く。

終了予定  
4時40分頃

3時頃



2時頃

